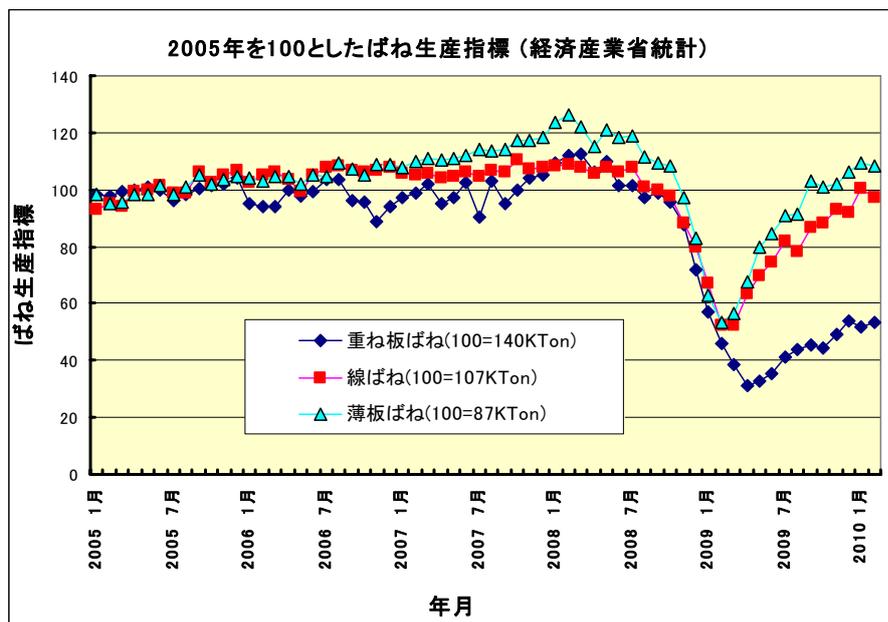
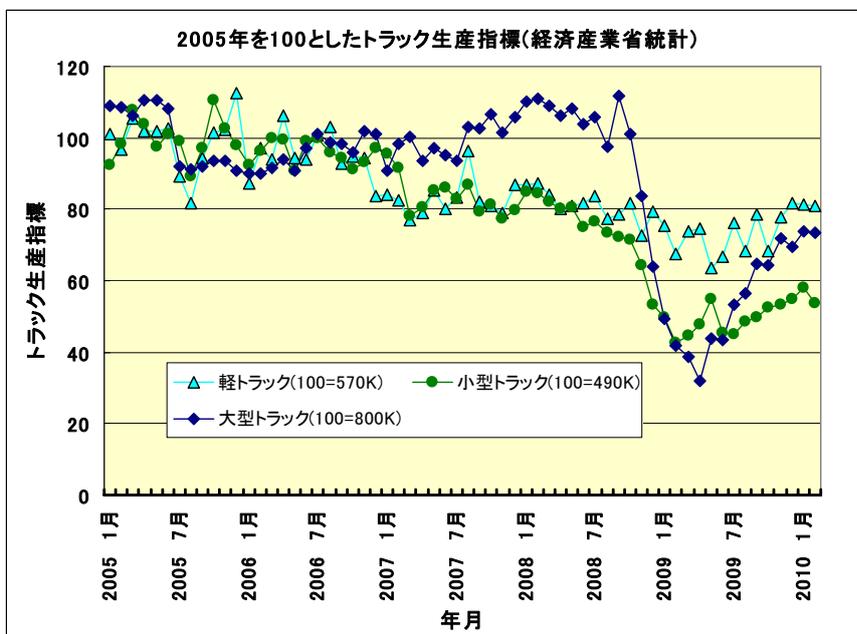
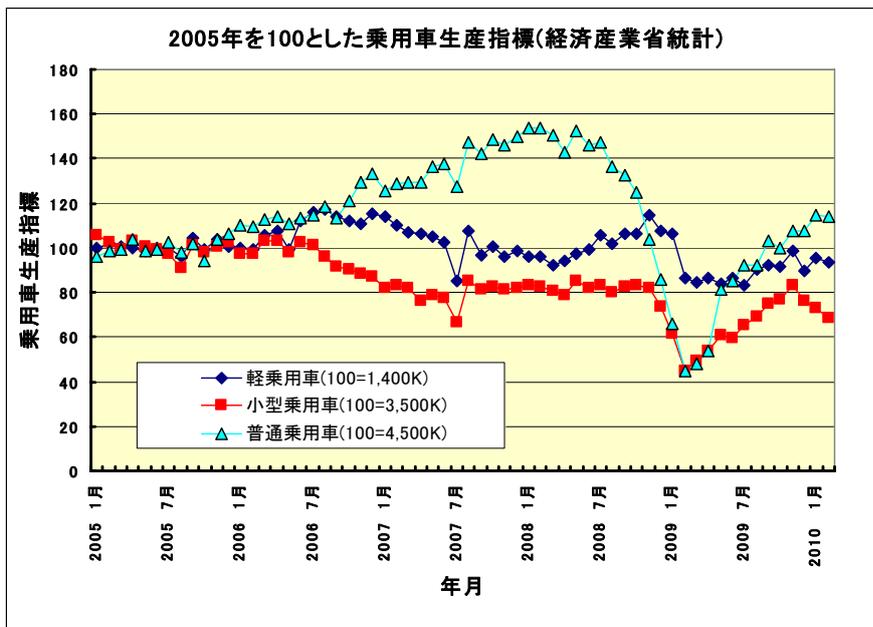


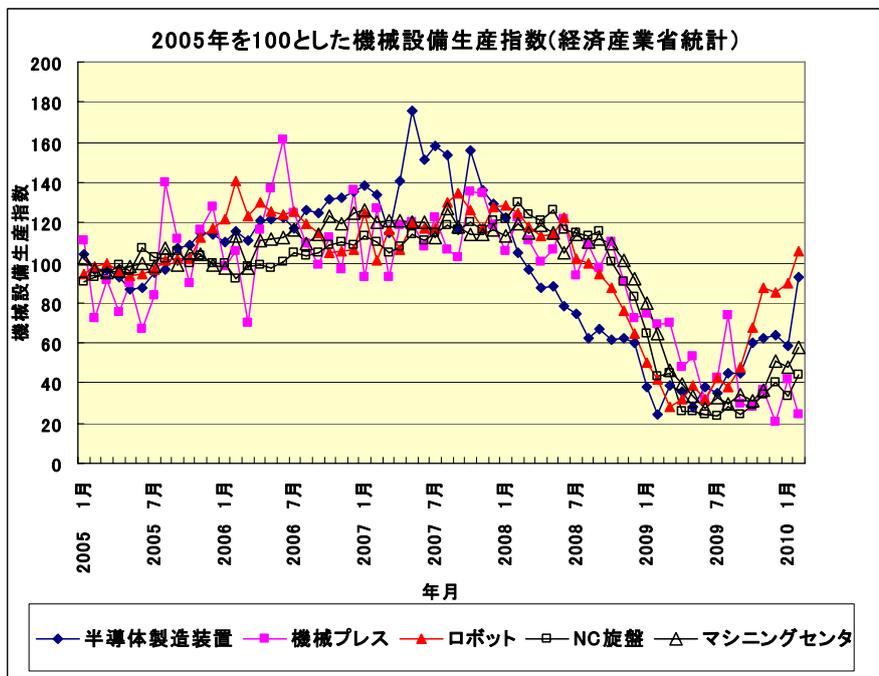
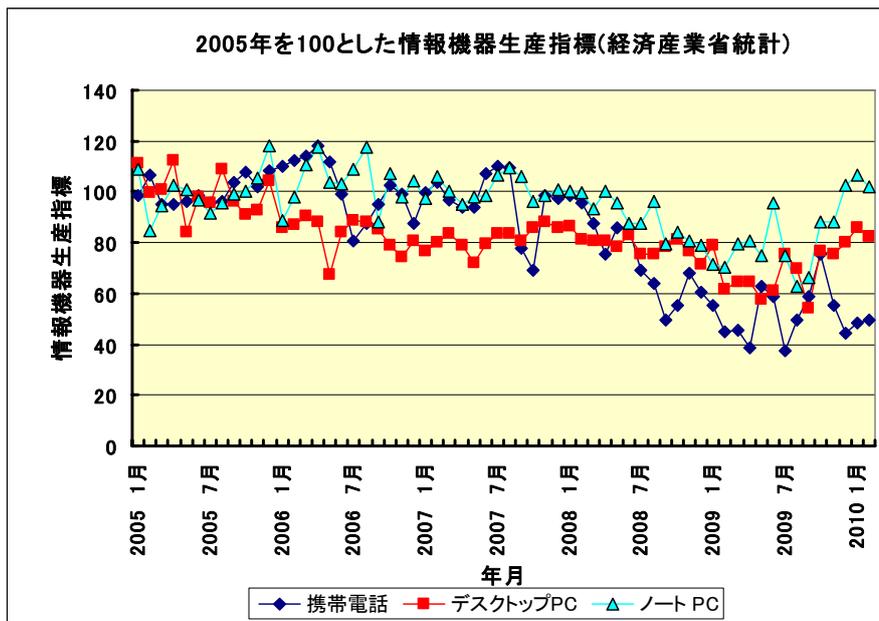
I ばね産業の環境

平成20年度下期から急激に進行した世界的な金融危機は、かつて経験したことが無いといわれる工業生産の落ち込み、設備投資の激減、および個人消費の低迷を引き起こし、ばね産業も主要客先である自動車および電気・機械の生産高の激減に直面した。ばね生産量はほぼ自動車生産量に連動して減少したが、幸いなことに平成21年3月でほぼ底をうち、同年5月頃から予想されていた以上に速いピッチで回復した。しかし、平成21年のばね販売高は会員平均で平成20年のほぼ30%減という結果になっている。





図に示す経済産業省の統計(季節調整済指数)によれば線ばねや薄板ばねは平成21年10月では平成17年レベルまで回復したが、重ね板ばねについては依然として平成17年の50~60%レベルに留まっている。これは急激な減少を示した普通乗用車生産が平成21年9月で平成17年レベルまで回復した一方で、小型・大型トラック生産の回復が遅れていることに起因する。情報機器の生産は、自動車ほどの急激な指数変動を示してはいないが、全体的には平成17年の80%レベルにあるが、平成21年後半からはパソコンの生産が回復した。機械設備の生産は依然として回復が遅れているが底は脱したようであり、産業用ロボットなどの一部の製品については回復が認められる。



II 平成22年度日本ばね工業会の基本方針

一昨年秋以降の世界恐慌とも言うべき厳しい経済状況下、すべての会員がひたすら事業存続に懸命に取り組み、最悪期をようやく脱したとは言えるが、今、息つく事は出来ない状況であることには変わりがない。また、平成20年12月に施行された新たな公益法人制度への対応が必要であり、ばね工業会にとってはその目的と事業活動のあるべき姿が求められているといえる。

このような状況の下、会員企業の発展のための施策を総務委員会、技術委員会、標準化会議及び技能検定推進会議の活動を柱とし、本部事業の充実と支部活動の活性化を図っていく。厳しい経済状況の影響を受け、ばね工業会においても大幅に会費収入が減少する見込みであり、事業活動の活性化を損なわないよう一層の経費削減に努めて運営を行ってゆく。

総務委員会は本部事務局の定常業務を管轄するとともに、役員会で議決された特別テーマの遂行等に当たるものとする。また、世界各国・地域ばね工業会相互の国際会議への参画（海外開催時の訪問団結成及び国内開催時の設営）の任に当たるものとする。

- (1) 国際交流：4月 3地域ばね国際会議（ドイツ・デュッセルドルフ）への参加
6月 中国国際ばね展示会視察団派遣
11月 ISO/TC227ばね国際会議の大阪開催への協力
- (2) 新公益法人制度：ワーキンググループを主体とし、平成23年度中の移行申請に向け準備する。
- (3) 機関誌ばね：編集方針立案と内容の充実
- (4) ホームページ：ホームページ活用のための諸施策立案・実施
- (5) 事業活性化：新規事業への取組み検討、立案
- (6) ばねの歴史：ワーキンググループを主体として、平成23年度中の出版に向け準備するとともに出版費用を確保する
- (7) 調査統計：会員生産月報並びにばねに関する政府統計を速やかに収集し、機関誌ばねおよびホームページを通じ広く関係者の閲覧に供する

技術委員会は会員企業の技術者及び技能者のレベル向上を事業の柱とし、新公益法人制度対応の重要な一年となることを踏まえ、本年度は以下のテーマに取り組む。

- (1) 開かれた工業会のための活動として、ばねの技術相談制度の充実に努める。
- (2) 地球環境問題、工場安全など工業会を取りまく問題への取り組み
- (3) 競争力を高めてのグローバル対応のための活動として、
 - ①生産技術伝承及び向上のため国家検定金属ばね製造技能士取得推進を図る。

②開発、設計、評価技術向上のため多彩な技術講習会を開催する。

- 基礎知識習得推進（ばね技術初級講座等）
- 生産技術標準確立（安全・環境への取り組み等）
- 設計技術向上（ばね技術中級講座等）
- 評価技術向上（計測技術、統計的品質管理等）
- 解析技術向上（FEM解析技術等）

標準化会議は国内諸規格の整備を図ると共に、諸外国特にアジア諸国との連携を深め、国際規格づくり活動を推進する。

（1）政府委託事業推進

政府の標準化委託事業ほかから再委託を請けて以下の事業を推進する。

①国際標準開発事業

「熱間成形圧縮コイルばね」、「ばね記号」のISO規格開発を行う。

②JIS規格開発事業

B0103「ばね用語」の改正、B2808「スプリングピン」およびB2711「ショットピーニング」の改正作業申請を行う。

③技術協力事業

マレーシア国内の標準化活動をさらに活性化させることを目的に研修を10月頃実施予定。

（2）自動車技術会規格（JASO）開発

本年度も引続き要素部会、車体・シャシ部会の活動に参加する。

（3）日本ばね工業会規格開発

年度計画に基づいたJSMA規格の新規及び改正制定、見直し等を推進する。熱間成形ばね部会から改正1規格、機能規格部会から新規及び改正の2規格が制定発行される予定。

（4）ISO/TC227ばね関連の国際標準化活動

①11月に大阪開催予定の第6回ISO/TC227ばね国際会議への参加と国際幹事業務支援。

②4月にデュセルドルフで開催される三地域国際ばね会議への参加。

③国内委員会活動の展開 第6回国際会議に向けた国内審議、準備活動を展開する。

技能検定推進会議は年2回の会議を開催し、地区別技能検定推進部会の提言に基づき、都道府県単位で実施される金属ばね技能士検定試験における地域差を排除するための諸施策を取り纏める。

取り纏めた提言は中央職業能力開発協会に報告し、中央指令として各都道府県職業能力開発協会に周知徹底することを期する。